

# 歯科予防処置論・ 歯科保健指導論

一般社団法人  
全国歯科衛生士教育協議会 監修

## 1章

# 歯科予防処置論・ 歯科保健指導論の概要

到達目標

- ① 歯科予防処置の概念と内容を概説できる。
- ② 歯科予防処置の法的位置づけを説明できる。
- ③ 歯科予防処置の範囲と業務を概説できる。
- ④ 歯周病予防を概説できる。
- ⑤ う蝕予防を概説できる。
- ⑥ 歯科保健指導の意義と特性を説明できる。
- ⑦ 歯科保健指導を個人と集団に分けて説明できる。



## 1— 歯科予防処置・歯科保健指導の 必要性

わが国は急速に高齢化が進むなかで、要介護高齢者の口腔の問題がクローズアップされ、歯や口の健康づくりは高齢になってからの対応では十分ではないことが再認識された。生涯にわたる歯や口の健康づくりは妊娠中から始まるものであり、ライフステージごとの歯や口の健康課題に取り組む歯科衛生士の役割は重要性を増すとともに、活動の場も拡がりをみせている。

この背景には健康づくりに対する考え方や行動が変化してきたこと、特に全身の健康や生活の質と関わる食の問題と歯や口腔の状況と関係づけたことが、問題が生じてからの対応ではなく、予防を心がけて行動することが大切であるという認識につながったことがある。その結果、歯や口に関する健康関連の情報提供、セルフケアに関する指導、定期的歯科受診の推奨、周術期口腔機能管理と地域歯科医療連携、要介護高齢者の口腔健康管理など、歯科診療所だけでなく、地域、福祉現場などに歯科衛生士の活動の場は拡がり、さらに専門性の充実とその活用が急務となった。

歯や口の機能を獲得する乳幼児期に始まる生涯にわたる健康づくりには、歯科医師や他職種との連携の下、対象とする人、地域などのニーズを適切に判断して、それぞれに必要な情報を提供し、処置を行うことが不可欠である。歯科衛生士が行う



図Ⅲ-2-13 フィルム状のプラーク



図Ⅲ-2-14 歯肉縁上歯石



図Ⅲ-2-15 ステイン

#### (4) 歯石

歯石には歯肉縁上歯石と歯肉縁下歯石がある。歯肉縁上歯石は肉眼で観察可能であり、エアで歯面を乾燥させると判別しやすい。歯質はエナメル質特有の透明感や硬質感があるが、歯石は黄白色や灰白色の層状の構造を呈しているため、歯質に比べ光沢のない質感である（図Ⅲ-2-14）。

歯肉縁下歯石は肉眼で観察できないため、歯周プローブやエキスプローラーを用いて確認する。歯周プローブやエキスプローラーは執筆状変法で指先に感触が伝わりやすいよう軽く把持し、歯根面の粗糙感を触知する。歯周ポケットの深さやエックス線写真を参考にしながら、歯石の位置や量、硬さなどを探知する。エックス線写真では、隣接面に沈着している歯石の位置や量を確認できるが、頬舌側などに沈着している歯石は、確認が難しい。

#### (5) その他の付着物・沈着物

プラークや歯石以外では、獲得被膜、ステイン（外来性色素）（図Ⅲ-2-15）が代表的である。獲得被膜は、機械的歯面清掃後の歯の表面に、唾液成分由来の糖タン

Link▶▶

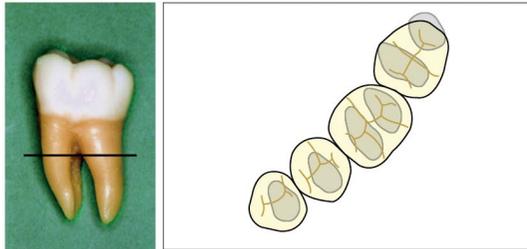
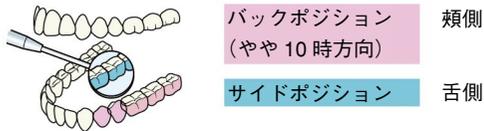
歯石  
p.31

Link▶▶

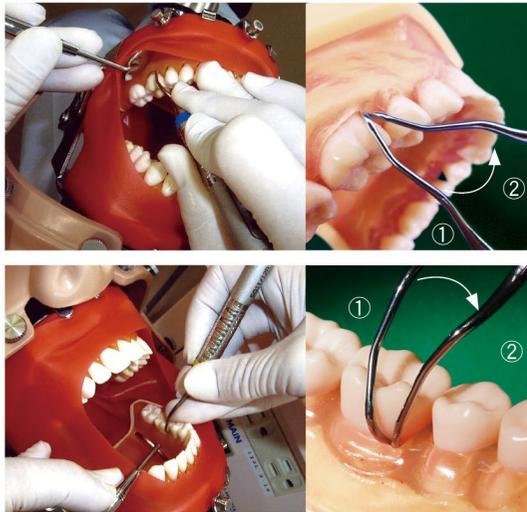
付着物・沈着物  
p.28

## (4) 下顎左側臼歯部 (14-7) での操作 (図Ⅲ-3-22)

- ①使用スケーラー：[キュレット] 遠心#13/14, 頬舌側中央#7/8, 近心#11/12  
 [シッケル] 頬側遠心・近心#3, 頬舌側中央#1, 舌側遠心・近心#2
- ②固定点：4指固定 (施術歯, または1歯か2歯前方の歯)



咬合面から見た歯冠外形と歯根上方より1/3部の根切断画像を重ねた図

**根の形態**

14 5は前歯に比べて丸みを帯びている。

16 7は近遠心径に比べて頬舌径のほうが長い。

歯根は近心および遠心に1根ずつあり, 近心隣接面にはくぼみがある。頬舌側の中央には根分岐部のくぼみがあり, 頬側のルートトランクは16で短く, 17, 18の順に長くなる。

**操作法**

遠心面は歯軸に沿って垂直ストロークで行う。頬舌側中央はポケット底部から斜めストロークまたは水平ストロークで行う。

遠心根近心面は頬側を#12, 舌側を#11で, 近心根遠心面は頬側を#13, 舌側を#14で垂直および斜めストロークで行う。

近心面は垂直ストロークまたは隣接面に向かって斜めストロークで操作する。

図Ⅲ-3-22 下顎左側臼歯 (14-7) での操作

してフッ化物イオン濃度や応用量など年齢に応じたフッ化物の使い分けが必要とされるが、エナメル質の形成も終了し体格も成人並みとなった15歳以上では、応用方法に大きな違いはない。特に歯根面う蝕の発病は成人期以降であるため、フッ化物応用の組合せによる歯のフッ素症、その他の慢性毒性の問題はなくなる<sup>1~3)</sup>。

また、わが国の場合は水道水フッロリレーションやフッ化物添加食品、サプリメントなどの全身応用がないので、この点でも慢性毒性を考慮した使い方をする必要はない。

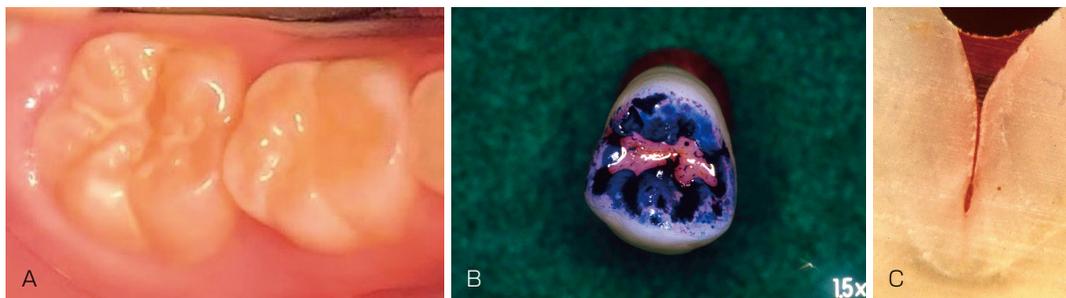
したがって、歯根面う蝕の予防の基本は、家庭でのセルフケアとしてのフッ化物配合歯磨剤であり<sup>4)</sup>、これにプロフェッショナルケアの場における高濃度フッ化物イオン(22,600 ppm)を含有するフッ化物バーニッシュの定期的な応用(3週間~1カ月間隔)を組み合わせ、職場などでは昼食後のフッ化物洗口を行えば効率的に歯根面う蝕の予防と再石灰化によるリバーシブル(健康な状態に戻す)効果が得られる。

## 4 小窩裂溝填塞法(フィッシャーシーラント)

小窩裂溝填塞法(フィッシャーシーラント)は、う蝕の予防プログラムの一環として臨床現場で応用されている(図Ⅲ-3-73)。萌出直後の幼若な臼歯の咬合面はう蝕になるリスクが高く、歯ブラシの届かない裂溝の奥深くまでう蝕病原細菌が生息している。この時期に填塞材で物理的に裂溝を封鎖し、う蝕の発生を予防することが重要である。

現在応用されている填塞材はレジン系とセメント系に大別され、レジン系は歯質への接着力が強く耐磨耗性に優れ、セメント系はフッ素イオンを放出し、感水性の関係から簡易防湿も可能であるため、萌出途中のラバーダムがかけられない歯に填塞することができる(表Ⅲ-3-26)。

小窩裂溝填塞法の適応は歯の萌出後まもない健全な乳歯および永久歯に効果的である。一部う蝕になりかかっている小窩裂溝も含まれるが、すでにう蝕になってい



図Ⅲ-3-73 小窩裂溝填塞の例

A：臼歯咬合面の小窩裂溝への填塞(北海道医療大学歯学部倉重圭史先生のご厚意による)

B：小臼歯咬合面への填塞(真木吉信先生のご厚意による)

C：小窩裂溝填塞部の断面図(真木吉信先生のご厚意による)

表Ⅳ-1-1 生涯を通じた歯科保健対策の概要

対象	歯科の特徴	歯科の問題点	歯科保健対策	
			主な具体策	ねらい
胎児期	歯の形成期	バランスのとれた栄養摂取が必要	母親教室などにおける歯科保健指導	丈夫な歯をつくるための食生活指導
乳児期	乳前歯の萌出期		乳児歯科健康診査、歯科保健指導	乳歯むし歯の予防、口腔清掃の動機づけ
幼児期 1～3歳	乳臼歯の萌出時期	乳歯むし歯の発生しやすい時期（甘味の不規則摂取など）	1歳6か月児歯科健康診査	乳歯むし歯の予防、口腔清掃の確認、指導、間食などに対する食生活指導
	乳歯列の完成期	乳歯むし歯の急増期	3歳児歯科健康診査 幼児に対する歯科保健指導	乳歯むし歯、不正咬合などの早期発見、早期治療、予防処置
4～5歳	永久歯の萌出開始時期（第一大臼歯）	永久歯むし歯の発生しやすくなる時期	保育所・幼稚園における歯科健康診査	むし歯予防と早期治療（特に永久歯）
心身障害（児）者	歯の形成不全及び唇顎口蓋裂など	広範性のむし歯発生など 咀嚼・発音障害	歯科保健指導の推進、治療機関の紹介	早期治療、歯科保健状況の改善、形態と機能の早期回復
学童期（小学校） 6歳～	乳歯と永久歯の交換期	永久歯むし歯の多発期	就学時歯科健康診査	永久歯むし歯の予防と早期治療の推進
（中学校） 12歳～	永久歯列完成期 歯周組織の過敏期	歯ぐきの炎症が始まる時期	定期歯科健康診査と歯科保健教育	歯科衛生思想の普及啓発 不正咬合の予防
（高等学校） 15歳～	第三大臼歯萌出	むし歯が放置されやすく歯周病の発生が始まる時期		歯科衛生思想の普及啓発 歯周病の予防
成人期	歯周組織の脆弱期	歯周病の急増	歯周病の予防と早期健康診査 歯科保健指導	歯科治療の推奨と口腔清掃の徹底
（妊産婦）	生理的变化	永久歯むし歯の増加 歯周病の急増	妊産婦歯科健康診査と歯科保健指導	
	歯の喪失開始時期	咀嚼機能の低下が始まる時期	健康増進事業における歯の健康教育、健康相談、歯周病検診 事業所などにおける歯科健康診査	歯周病の早期治療推進 歯の喪失予防
老年期	歯の喪失急増期	咀嚼機能の低下（義歯装着者急増）	義歯などに対する歯科保健指導 訪問口腔衛生指導	咀嚼機能の回復、口腔清掃の徹底（義歯の手入れなど）

（厚生労働統計協会編：国民衛生の動向 2014/2015、厚生労働統計協会、東京、2014、139、改変）

- ①妊産婦期：妊娠期および授乳期を含む出産前後の女性
- ②新生児期：出生から生後4週（28日）まで
- ③乳児期：新生児期以降1歳未満（離乳期を含む）
- ④幼児期：1～5歳（満1歳以降小学校就学まで、前期：1～2歳、後期：3～5歳）
- ⑤学齢期：6～15歳（小・中学生）
- ⑥青年期：15～29歳〔前期（思春期）：15～19歳、後期：20～29歳〕
- ⑦成人期：30～64歳
- ⑧老年期：65歳以上